

28. 豊田郡大崎上島町最高峰

神峰山 (452.3m)

豊田郡大崎上島町



神峰山(かのみね山)は大崎上島の南側にあり、大崎方面からは車道、木江からは遊歩道。展望がよいと瀬戸内海の115の島々が見渡せ、石鎚山も望めるそう。

豊田郡大崎上島町	2017,4,1 推定
<面積>	43.11km ²
<人口>	7,730人
<人口密度>	179人/km ²

【山行日】1月28日(日) ☆天候：曇り時々雨、雪

【参加者】16名 CL 三村正弘 SL 藤原秀美

井原 川谷 合志 新江 田所 反田 中島(美) 中島(恵) 中島(靖) 松本 林 原田 宮木(澄) 吉岡

【交通機関】高速バス(バスセンター7:00 発⇒広島駅⇒矢賀新町⇒8:25 竹原フェリー着)、高速船(竹原港9:03 発⇒9:26 木江天満港着)、フェリー(大西港14:10 発⇒14:45 安芸津港着)、JR(安芸津駅⇒広島駅)

【コースタイム】木江天満港9:25～神峰山登山口9:45～10:55 石鎚神社展望台11:08～11:15 神峰山頂11:20～11:40 丸太小屋12:15～13:30 大西港

【報告】当日は生憎の曇り空。かぐや姫号というロマンチックな名的高速バスに乗り竹原港まで行く。さらに竹原港より高速船にて大崎上島の木江天満港まで天気の状態を気にしながら移動をした。木江天満港に下船後徒歩10分ほどで登山口に到着した時は小雨が降り出した為、雨具を着て登山を開始した。セメントで固めた道を登り金剛寺というお寺の横を通ると、所々にお地蔵様が鎮座されており、お地蔵様の赤い帽子とエプロンが鮮やかに目に映る。雨でえぐられたらしい溝のできた道をしばらく歩くと、段差の大きな階段が続く。しっかりと足を挙げ下肢に力を入れながらの登りであった。登るに連れて雨が雪に変わるが、幸いに風がなく寒さはそれほど感じなかった。多島美が瀬戸内海随



一といわれる景色は残念ながら薄墨色の彼方であった。晴れるときぞ素晴らしいであろう景色を想像しながら進んだ。しかし、この寒さの中つつじだろうか、春に咲く為のつぼみがしっかりと付いている。また新しく伸ばした枝先の赤の美しさに感激ができたのはこの日ならではの天候の賜物であった。スカイツリーの回廊と同じ高さの標識が現れると鐘楼が見える。すぐその先が石鎚神社展望台である。最後尾とは少々間があいたが全員が合流し宮木さん手作りの干し柿に舌鼓を打った。ここで昼食を摂る予定を寒さが緩和できる丸太小屋に変更をする。10分足らずで薬師菩薩が祀られたお堂がある頂上に到達。記念写真を撮るとすぐに、丸太小屋を目指

し下山した。下山道も階段の連続だが段差が小さく歩きやすい。小雪の降る中、体温が下がるのを懸念し一気に歩き丸太小屋に到達した。

予定より時間が短縮されたため、大西港からの船便を早い便に変更することとし、昼食を早々に摂り丸太小屋を出発した。沿道の果樹園にはオレンジ色の実をたわわにつけている木もあり、柑橘類を餌にするのか野鳥が飛ぶのが目立つ。出会う人も、車も少ないが舗装された複車線の立派な道路を散策しながら港へと向かった。途中の田の中に雑草や害虫を駆除する稲作作りの担い手らしいかもが10羽程おり、その傍では自然界のかもが飛び立つ情景が対照的だった。乗船したい便に間に合うように少々速足で進んだため、大西港の待合室でゆっくりとできる時間に到着した。（記 藤原秀美）

神峰山のある大崎上島は・・・

平成の合併で豊田郡は、東広島市（安芸津町）、呉市（川尻・安浦・豊浜・豊町）、三原市（本郷町）、尾道市（瀬戸田町）に合併し、ただ一つ残ったのが1島1町の大崎上島町である。西の安芸灘とびしま海道、東のしまなみ海道のいずれにも属さず、瀬戸内海芸予諸島の真ん中でみかんと造船の町として踏ん張っている。

神峰山の北東には木江港があり、国交省「島の宝100選」に広島県でただ1つ選ばれた「權伝馬(かいてんま)競漕」が7月下旬～8月上旬に木江十七夜祭で行われる。本船と岸の間の荷役や連絡を担っていた小型の和船、伝馬船に地域ごとに分かれ若者が乗り込み、權(かい)をこいで競う200年以上続く伝統行事。戦国時代には小早川水軍下でこの島の水夫は“大崎衆”として活躍し、秀吉の朝鮮出兵の際には木江で船が建造されたとのこと。江戸時代、瀬戸内海は船による物資の移動が大量になされ、木江は風待ち、潮待ちの港として使われ、廻船業も発達していったよう。

全国で5校しかない国立商船高等専門学校の1つ広島商船高等専門学校がこの島にある。その沿革には豊田郡の13町村組合立の海員学校として創立されたとある。明治になり従来の船頭では近代船の船長になることができなくなり、船乗りの技術を高めるためにつくった学校が後に、県、国へと移管され現在に至っているらしい。また、この島は中型鋼船の建造では日本一を誇るとのこと。船を操る技術だけでなく、船を建造する技術もこの島では磨かれてきたのだ。

木江港～ここで十七夜祭の權伝馬開催



地区の名誉をかけて熱戦が繰り広げられる！



豊田郡大崎上島町最高峰山頂で



今までやまぼうしで登った豊田郡大崎上島の他の山

神峰山(2004)のみ